

国土交通省直轄事業の建設生産システムにおける発注者責任に関する懇談会 企業評価専門部会（第7回）

議事概要

1. 日 時：平成 20 年 3 月 3 日（月）15:00～17:00
2. 場 所：ルポール麹町 3F エメラルドの間
3. 出席者：高野伸栄部会長、大森文彦委員、小澤一雅委員、木戸健介委員、
佐藤典子委員、高崎英邦委員、根本敏則委員、渡邊法美委員、澤木英二委員、
吉田光市委員、松原裕建設企画室長（山縣宣彦委員代理）、横山晴生委員
4. 議事概要
〔競争参加資格審査の具体的手法（素案）について〕
 - 技術評価点数は工事成績を基本としているが、技術は人に属しているため、将来的には工事成績以外の評価項目についても考慮していくべきではないか。
 - 元請のゼネコンはマネジメントが主であり、本当の技術は専門工事業者が保持しているものもある。工事分野別の評価でその点が考慮されるのはよいと考えられる。
 - 基本的な考え方の「等級に応じた品質の確保」は、「各等級に応じた能力を發揮し、当該工事において一定の品質を確保」とした方が趣旨が明確になるのではないか。
 - 各地方整備局の審査において北海道地域の実績を対象としていないことを説明する必要があるのではないか。
 - 将来的には工事成績の控除点数を 70 点に引き上げる方向で検討してほしい。自治体の工事成績は平均点を控除することとしているので、それとのバランスを見ながら検討してほしい。また、自治体については平均点以下を減点しないとしているが、将来的には減点した方がわかりやすく、技術力が高まる方向に行くのではないか。
 - 専門工事業者の下請の実績を評価し、企業選定時に活用する仕組みを具体的に検討してほしい。
 - 工事成績の影響が非常に大きくなるため、工事成績が適切につけられているということが前提となる。
 - 定期の資格審査の方向性とあわせて、工事ごとの資格審査、総合評価の 3 つのプロセスにおける評価項目のバランスについて今後の方向性を打ち出した方がよいのではないか。
 - 難しい工事でも規模の大きい工事でもできるように技術力を伸ばす企業と、地域の災害防止のことを考えて地域に根差して地域を支える企業と、2 つの方向があると考えられる。それを技術力という一つの軸で評価することがよいのか。今後マーケットが小さくなっていく中で今のままの制度を維持することがいいのか、引き続き検討してほしい。

- 工事分野別の評価が今後のポイントになるのではないか。良い仕事をすればビジネスチャンスが広がるのはごく自然のことと考えられる。安定経営を目指す人と事業拡大を目指す人と企業によって経営方針が違うので、上位等級に上がるだけでなく、留まることも選択肢としてあってよい。
- 発注標準を技術的難易度と工事規模の2軸によりどのように区切るか今後検討する必要がある。

〔入札ボンドに関するアンケートの結果について〕

- アンケート結果から、入札ボンドにより一定の効果が現れていると評価できるのではないかと。
- ボンド発行会社は主に経営状況を審査しているようであるが、技術力の評価はどのようにしているのか。現行の体制では難しいのではないかと。
- 発注者に代わって経営力と技術力を評価することを期待するのであれば、ボンド発行会社に専門家が育っていくような制度とする必要がある。

〔今後の予定について〕

- とりまとめで整理した「継続して議論すべき事項」について必要な時期に部会を開催し、引き続き検討を行う。
- とりまとめは3月末に開催予定の発注者責任懇談会に報告する予定である。

以 上